

會報

第586号

平成29年7月1日発行

一般社団法人
監査懇話会

編集発行人 菅野 重雄

<http://kansakonwakai.com/index.html>

第737回講演会

平成29年5月24日

講師：一般財団法人日本総合研究所 会長 寺島 実郎氏
演題：変わる世界と日本の進路

《訪米で感じたトランプ政権》

今の時代をどう認識するか。GWにワシントン、ニューヨークと動いてきたので、まず、トランプ政権をどう見るかについて話したい。今、国際会議に出ると「逆さまの世界」という定番のジョークが必ず出る。1月のダボス会議で習近平が「グローバリズムと自由主義が大切」と言えば、その3日後に自由主義の総本山だったアメリカのトランプ大統領が就任演説で「保護主義こそが経済を強くする」と宣言する。余程世界を見る自らの座標軸をしっかりと持たないと右往左往することになる。今回のGWに日本の政治家が50人ほど東海岸に来ていたが、これまでは片言の日本語で彼らと話し、例えば米国の政府要人とのアポを取ってくれるジャパノロジスト、知日派（私は安保マフィア、と呼ぶ）が姿を消した。知日派とはリチャード・アーミテージ、カート・キャンベル、マイケル・グリーンらで、ヒラリー・クリントン側についていたため、トランプ政権下では一切の影響力を行使できなくなったからだ。私は決して悪いことではないと思う。日米関係をもう一度柔らかに考え直す転機になるのではないか。また、アメリカの政権基盤の不安定さをこれほど強く感じたこともなかった。政治指名で決まる千数百人の人事のうち、まだ4分の1も決まっていない。しかも支持率が4割を割っている。政権が人気取りの政策に走りそうな危うさを感じる。

一昨年、375万人の日本人がアメリカを訪れたが、行先はハワイ、グアム・サイパン、西海岸のカリフォルニアなど9割が島か海岸線で、大統領選ですべてヒラリーが勝利を収めた地域だ。トランプが勝ったところには日本人の理解は及ばない。今

回の大統領選はトランプが勝ったというよりもヒラリーが失速したと言える。あらゆる要素で勝てるはずだったのに、予備選でサンダース現象にのみ込まれた。若い学生らはヒラリーに「ウォール街の回し者」というレッテルを張り、サンダースを熱狂的に支持した。彼らの貧困と格差へのいら立ちは相当なものだ。学費の高騰はすさまじく、平均で500万円の借金を背負わないと社会に出られない。そんな中でヒラリーは夫の



ビルと共に財団を作り、蓄財に励む卑しい女性と見られた。トランプ現象を支えたのも白人貧困層の貧困と格差へのいら立ちだ。白人の貧困率は2000年以降徐々に高まり、12年からはアジア系を上回っている。ホワイトナショナリズムという言い方がある。昨年のアメリカの人口構成で白人が6割を切り、口にこそ出さないが白人たちのいら立ちが募っている。そこに、グローバル経済を無視した「移民が白人の雇用を奪っている」などとするトランプの言葉に、ラストベルト地帯の白人たちが共感を覚えた。

《産業政策と金融政策のまた裂き》

トランプ政権は産業政策ではTPPの離脱やNAFTAからの撤退をほの

めかすなど極端な保護主義に走って白人のいら立ちに応え、一方、金融政策では規制緩和策を取るなど新自由主義を徹底する動きに出ている。ウォール街のしたたかな人々は、トランプが勝つや否や法人税引き下げやインフラ投資の公約を材料に株価を引き上げトランプ相場を演出、トランプをがんじがらめにして、金融規制策の緩和に向かわせようとしている。大統領選のさなかには、反ウォール街の学生らの熱気にヒラリーもトランプも伝統的な金融規制法の復活を口にし、強欲なウォール街を縛るとまで言っていた。ところがトランプ政権になると、リーマンショック後にオバマ前大統領が作ったあまり機能していない金融規制改革法さえ大統領令で廃止する動きに出ている。

《政権の布陣で分かること》

財務長官のムニューチンは元ゴールドマン・サックスのパートナー、日本でいえば執行役員になる手前のクラスだった人物で、何とも軽量クラスだ。トランプセンターの財務担当で論功行賞の人事だ。商務長官のウィルバー・ロスはウォール街のマネージャー。ウォール街は二重構造になっていて、勿論健全な産業金融という側面もある。しかし、今跋扈しているのはマネージャーたちだ。「ハゲタカ投資家主導のトランプ政権」と報じた新聞もある。国家経済会議（NEC）のコーン委員長はゴールドマン・サックスの前社長兼COOでやたらとゴールドマン・サックスが目につく。

また、布陣の中で最も注目しなくてはならないのは、ティラーソン国務長官だ。エクソンモービル前CEOで、サハリンのLNG開発プロジェクトで同社主導のサハリンIのトップ

を務めた。長官についたのはキッシンジャーの推薦という。私はこの名前を聞いたときは、エクソンモービルにとってロシアの経済制裁を如何に外すかが最も重要なため、利害相反で議会がとても認めないと思った。ロシアのプーチンにとってティラーソンは重い存在だ。プーチンが今のような専制君主制の権力を持った原点はエネルギー産業の国有化だ。そこに踏み込み、以来それを追い風にロシアをグリップし、今やユーラシア大陸を手玉に取るような振舞までしている。その重要なきっかけを与えたのがティラーソンと言える。プーチンが登場したころは、私たちはエクソンモービルが同国の大混乱に乗じてエネルギー産業を掌握するのではないかと見ていたが、プーチンはティラーソンの話を聞きながらもその手に乗らず国有化に踏み切った。

先日のシリア攻撃でもロシアに事前通告しており、ティラーソンも訪露し外相とは5時間、そのあとプーチンと2時間1対1で話している。内容はシリアやIS対策だけでなくエネルギー価格の引き上げもが出たはずだ。アメリカはシェールガスが出すぎて、去年は原油がバーレル当たり26ドルまで下がった。今は50ドルまで戻っている。エクソンモービル、ロシア、サウジアラビアにとって、渴望ともいえるラインは60ドルを超えて70ドルあたりまでというのが本音だ。その共通の課題に向けて、深い議論をしたことが伝わっている。

トランプ政権はエネルギー政策で化石燃料シフトに舵を切っている。8年前のオバマ政権ではグリーンニューディールを掲げ再生エネルギー重視でスタートした。8年たってみるとシェールガス開発ですっかりパラダイムが変わり、今やアメリカが世界一の産油国、天然ガス産出国となった。供給過剰で原油価格が下がり、加えてイランの再登場がある。核合意で経済制裁の解除がなされ、原油生産も増加中だ。トランプがイランに対しメッセージを出しているが、根底には原油問題がある。いくらバルブを絞ってもイランの原油が国際市場へ出て価格が軟化しているという思いだ。

《20世紀前半を懐かしむ産業政策》

トランプは1946年生まれでベビーブーマー世代。「偉大なアメリカを

取り戻す」と強調しているが、いつ頃を想定しているのか。アメリカ経済の歴史的なエポックをたどると1859年のペンシルベニアでの油田発見、石油の大量消費を約束した1908年のT型フォード誕生、ナイロン靴下の展示で石油化学製品を一般に使えることを示した1940年のニューヨーク万博が浮かび上がる。石油～自動車～石油化学製品のトライアングルが20世紀前半のアメリカの黄金時代を支えた。トランプはこの時代を意識している。現在堅調なアメリカ経済を引っ張っているのはシリコンバレーに象徴されるソフトウェアやインターネット関連のハイテク産業だ。ここで働く人たちは多様な人種で、トランプがこだわるイスラムの排除など白人の怨念を背負った考えを最も嫌う。今のトランプとシリコンバレーの経営者たちとの緊張関係はここに由来する。

《世界経済と日本の貿易相手国》

(以下、統計表、図表は省略します)

IMFの世界経済見通しで実質GDPは今年3.5%成長で、昨年を0.4ポイント上回る。その要因の一つはBRICs国家。一昨年から資源価格の下落や経済制裁でマイナスに落ち込んでいたブラジル、ロシアが水面上に浮上。インドは中国の成長率を追い越した勢いを持続し7%成長となり、中国はGDPの4割以上を政府固定資本形成に依存する形ではあるが、6%半ばの成長見通しだ。また、ASEAN5と呼ばれる東南アジア5か国が5%成長で持ち堪えていることもある。日本を除くアジア全体で6%半ばの成長見通しである。7%成長はミラクルな数字で10年続くとGDPが2倍になる。つまり10年後には日本を除くアジア全体のGDPは倍になる見通しだ。

こうした全体状況の中で、日本の立ち位置を貿易相手国のシェアの推移で見てみよう。1990年ではアメリカが27.4%でトップ。それ以前は4割を占めたこともあり、日本はアメリカとの貿易でメシを食ってきた。これが次第に落ち込み、東日本大震災があった2011年には11.9%と1割を切る寸前までいった。しかし、アメリカの実体経済の良さから、数字は増え始め去年は15.8%になっている。アメリカに代わってトップになったのは中国。90年には3.5%だったのが07年にアメリカを追い越し、去年は21.6%にまでなった。シンガ

ポール、台湾などを加えた大中華圏でとると3割以上にもなり、アジア全体では去年で51.7%と5割を超えた。10年後にアジア全体のGDPが2倍になるとすれば、日本の対アジア貿易シェアは一層増すことになる。

《経済統計から見た日本の姿》

日本経済を見るには国民が今どうなっているかを見るのが最も重要だ。それには勤労者可処分所得の推移を見れば、よく理解できる。働くサラリーマンの手元に残る金額だ。1990年のバブル崩壊後も増え続け、ピークは97年の月額49万7千円。日本人に一番人気のあるハワイへの訪問客もこの年220万人(今は135万人)と最高で、現実を映す統計数字の生々しさを感じさせる。去年の可処分所得は42万9千円。ピーク時に比べ6万8千円、年間で80万円近く落ち込んでいる。日本で今進行しているのは貧困化で、中間層の没落である。日本は異様なまでの分配の平準化で、10年ほど前までは国民の9割が自らを中間層と思い込んでいた。この中間層が今、貧困化に直面していると言える。

これを消費支出から見てみよう。年金生活者や農家も含めた全世帯の家計消費支出で、21世紀に入る2000年と去年の数字を比較すると、この16年間で月額3万5千円、年間40万円近く減っている。項目別では全体的に減った中で増えている項目もあり、そのトップは諸雑費。収入が減っているで大それたものは買わないが、豊かだったころの名残りでスマホのケースなど細々としたものには金を使っている。2番目は通信費。電話代の単価は4分の1に減っている。なので、かなりの増加になる。また、医薬品・サプリメント・保健医療サービスの増加は高齢化に加え、自分の生死には金をかける、という消費行動のパターンに当てはまるものだ。一方で減っている最大のは小遣い・交際費。両方合わせて月額2万円、年間で24万円減った。これでは元気が出るわけではない。仕送り、教養・娯楽費、書籍代の減額も深刻だ。日本人は学ばなくなり、学ばなくなったのだ。仕送りはこの10年間で年間40万円減ったという数字もあり、学生は本当に貧乏だ。大学は親元から通えるということで、地域大学化している。

こうした貧困化で時代の空気は驚くほどに内向き志向になっている。

テレビ番組でも貧困化を見つめるものより、日本人は世界で活躍しているものなど互いに褒めて盛り上げようとするものが多くなっている。

《異次元の高齢化》

少子高齢化の問題を一步深めて考えてみたい。今年は80歳以上の人口が1000万人を超えた。100歳以上の人口は7万人で100歳超えは珍しくなくなった。日本の人口は1966年に1億人を突破し、2008年に1億2800万人でピークを迎え、我々は民族の頂点に立ち合った。以降、年間100万人、大都市が一つ消えるほどの規模で減っている。2050年前後には1億人を切るといわれている。1億人を超えた時と中身では大きく違い、65歳以上人口が1966年には700万人だったのが、2050年には4000万人と見られる。これこそが異次元の高齢化だ。高校生に話をする時には、高齢化の問題は若者世代の問題であると呼びかけている。これまでは大学を出て仕事を決めて働き60歳以降は第2の人生、と言っていたものが、これからは60歳を超えてから40年以上もの長い人生があるのだ、と。

シルバー・デモクラシーのパラドックスという言葉がある。未来の時間を生きて責任を持つ若い世代ではなく、老人たちが未来を決めてしまう。イギリスのEU問題国民投票で若者は多く残留に投じたのに、老人世代の多数が離脱を決めた。米大統領

選挙でも若者はヒラリーに投票する一方、老人の多くがトランプに投票した。日本でも2050年前後には65歳以上の人口が4割を占め、有権者の5割となる。投票率は若者の2倍なので、有効投票数の6割が65歳以上の票となる。老人の老人による老人のための政治、になる可能性がある。それで果たして良いのか、と問いかけてたい。

現在の高齢化問題で象徴として国道16号線を取り巻く千葉～埼玉～神奈川の団地・マンション群を挙げたい。出来た当初は核家族が住み新都市中間層となり日本のデモクラシーを担う存在と期待された。しかし、高齢化の進展でこれらは幻想と化した。日本は今、世帯構造の単身化が急速に進んでおり、1980年に単身世帯を含め単身化予備軍世帯が38%だ

ったものが、2015年には63%までになっている。これらの団地・マンション群は独居老人が多くなり、何もすることもなく立ち尽くす人々であふれることになる。田舎の高齢者は至近距離に第一次産業があり、農業を通して社会に参加できるという意味でまだ救いがある。国道16号線沿いにはそれがない。横浜の高齢者団地住民が長野にリンゴ畑を借りて、多くの人が現役時代の経験を活かし、大きなリンゴ産業に育てた例がある。日本で今一番求められているのは、老人たちに向けて参画のプラットフォームを多様に作ることだと思う。農業に限らず教育や子育てなど様々な切り口で高齢者が参画し社会に貢献する計画を作り、参加型高齢化社会の実現こそが必要だ。

(文責 清水 光雄)



お断り

第297回監査セミナーは5月29日、西村あさひ法律事務所の武井一浩弁護士が「ガバナンス法制と監査役・監査等委員・監査委員」と題して講演しました。都合で要録は掲載しません。レジュメ全文は当会のHPに掲載しています。

麒麟ビール(株)横浜工場

今回の研修見学先は幕末に起きた有名な「生麦事件」発生場所のすぐ近くに立地する麒麟ビール(株)横浜工場。当日は“ビールづくりの現場で、見て、触れて、味わいながら、「一番搾り」のこだわりを五感で体感するツアー」と同社が銘打つ人気の工場見学『一番搾り、うまさの秘密体感ツアー』に参加。参加者は38名。いつもの研修見学会と比べ会員の参加が目立った。

同工場見学記念の集合写真撮影の後、14時40分からツアー開始。まずホールで15分ほど映像による同工場の歴史等の概要説明を受ける。同社は在留外国人が中心となって設立した横浜山手に工場があったジャパン・ブルワリー・カンパニー(JBC)の事業を継承して1907年(明治40年)に創立。1923年(大正12年)9月に発生した関東大震災で横浜山手工場が壊滅的被害を受けたためこれを廃止し、生麦に新工場を完成させた(現横浜工場)。今の「麒麟」のラベルはJBC時代からのもの、現在国内に北海道から九州まで9工場を

有する…等々。

このあと、ガイド嬢を先頭に見学通路へ。全員1グループで、“一番搾り”の製造工程の見学に移る。見学途中では最新のプロジェクトンマッピングを用いた巨大な仕込釜の内部が見られる映像、酵母が働くミクロの世界を手を使って映像で体験するなど視聴覚に訴える案内・説明が次々と続いていく。また、原料のホップを実際に手に取って香りをかいだり、麦芽をかじったり、一番麦汁と二番麦汁を飲み比べたりの得難い体験もすることができた。15時40分、ビールの缶詰め、瓶詰め、箱詰め工程を見て製造ラインの見学は終了。みんな、だいぶ歩いてのども乾いてきたところ。

待ちに待った試飲会場へ。試飲1杯目は“一番搾り”、そのほか“一番搾り・横浜づくり”“一番搾り・スタウト(黒ビール)”を含めて3杯まで。ガイド嬢からおいしいビールの

注ぎ方も教わる。ノンアルコールに手を出す人は極めて少ない。試飲時間を5分間延長していただいたが、全員短時間にほぼ3杯を飲み干して16時05分ツアー終了。解散。

ほろ酔い気分で駅へ向かう人、飲み足らずに工場内のビアパブ“スプリングバレーブルワリー”や生麦駅近くの居酒屋へ向かう人。以降の行動はすべて自己責任、当会は関知せず。

(飯盛 孝夫)



第9回定時社員総会

一般社団法人監査懇話会の第9回定時社員総会が、5月24日水曜日の午後1時15分から日比谷図書文化館コンベンションホールにて開催されました。出席者総数は97名でした。菅野会長が議長となって開会を宣言、渡部監事による監査報告の後、菅野会長が平成28年度の事業報告を行いました。まず概況として、日本経済は概ね円安・株高が続き市場は活況を呈しているとは言われるものの、巨大企業の会計不正等種々の不祥事を契機に「攻めのガバナンス」から「守りのガバナンス」の重要性が改めて問われるようになったこと、こうした環境変化の中で当会はこれまで以上に「監査品質」「監査技術」の向上を目指して一層の活動強化等を果たしていくことが求められていることが説明されました。会員数は本年3月末で前年比18名増の181名でしたが、会友数は前年比8名減の144名で、会員数の一層の拡大施策とともに、会友数の維持・向上を図ることが新たな課題であること、また各部会の活動は前年度に引き続き総じて活発に展開されましたが、その中で生涯学習部会の囲碁会が参加者数の減少等を理由として、残念ながら活動を休止せざるを得なくなったこと等が説明されました。決算については当

初計画を上回る当期利益145千円の黒字であったことが報告されました。そして決議事項の審議に入り、貸借対照表及び損益計算書、利益処分案はいずれも賛成多数により承認可決されました。

次に、平成29年度事業計画及び損益計画承認の件について審議に入りました。本年度の主要な課題として、①会友数の維持・拡大については、会員(現職監査役)からの退任時に会友として残っていただくような働きかけが重要であること、②研修見学会のあり方の見直しについては、昨年度バス代の大幅高騰等の理由から一旦中止した特別研修見学会を、本年度はバス代の一部を参加者に負担してもらうことで復活すること、③HP再構築による情報サービスの質的向上については、使い勝手の不便さや今後のセキュリティ上の懸念等が払拭できない状況であることから、本年2月にプロジェクト体制を一新し、新体制の下で早期解決に取り組むこと、④事務局業務の見直しについては、諸活動の活発化等による事務局の負荷が増加傾向にあることからパートタイマーを1名採用したこと、一方で事務局業務の整理・効率化を図るために総務担当理

事の下で、サービスの維持・向上と管理費抑制を果たす施策の検討を行うこと等が説明されました。以上について特に質問はなく一括して審議に入り、賛成多数により承認可決されました。最後に理事、監事の選任議案について審議に入り、承認可決され社員総会の閉会が宣せられました。

続いて新任理事・監事が紹介された後、直ちに招集された理事会で、会長に菅野重雄氏、副会長に渡辺克司氏、木本洋一氏が選出されたことが報告され、木本副会長の挨拶があつて午後2時過ぎにすべてが終了しました。

(太田 剛)

新任理事ご挨拶

理事就任にあたって



野村 立夫

この度、理事に選出され、研修見学委員長に就任しました。昭和46年に日本専売公社（現在の日本たばこ産業）に入社し、約30年海外部門を中心に勤務。特許紙器という小さな印刷会社に転籍しましたが、ほどなく凸版印刷グループの印刷会社になりました。トッパンプロスプリントと社名変更後、常勤監査役を4年勤めました。この間、日本監査役協会で、「監査役とは？」を真面目に学びましたが、自分自身が納得出来る

までには至りません。監査役退任後、ある友人に誘われて、監査懇話会に入会し、今も「プロの監査役とは」を探究して彷徨っています。研修見学会は日本監査役協会にはない、監査懇話会独自の「現場」で行う実践力の研修と考えています。常に新しい出会いがある、新しい発見がある、そんな研修見学会にしていきたいと考えています。皆様のご協力をお願いします。

理事就任にあたって



藤井 孝

5月24日に開催された第9回定時社員総会で理事に選任され、6月から事務局長を拝命いたしました。私は2011年6月に三菱電機メテックス㈱常任監査役就任と同時に監査懇話会に入会し、新任監査役セミナー、会計基礎講座で監査役としての基礎を学びました。2年目以降もスタディグループ分科会の運営委員をはじめ様々な分科会、講座、行事に参加させていただき、諸先輩方のご

指導で、何とか閑散役ではない監査役職務を務めることができました。入会当時、田村事務局長の新入会員への温かい気配りによって監査懇話会への親しみや監査職務の向上意欲が増したことを記憶しています。諸先輩や前任の坂本事務局長の業績を受け継いでサービス部門としての役割を果たしていきたいと思ひます。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

理事就任にあたって



岩本 泰志

第9回定時総会において理事に選任いただき、監査基礎講座委員長を拝命しました。私は1977年、王子製紙㈱（現王子ホールディングス㈱）に入社後、主に管理・人事関係の業務に携わり、王子ネピア㈱・王子サーモン㈱などを経て、2014年旭洋紙パルプ㈱監査役に就き、前任者に勧められて当会に入会しました。会では業務分科会、スタディグループ分科会で仲間の方々と企業不祥事や労務管理リスクなどについて勉強させていただきました。

改めて監査懇話会60年史のページ

を開きますと、法改正時における監査制度強化への働きかけ、テーマ毎の勉強会などとともに、各分野から一流の講師を招いての講演会や研修会を重ねていることに感動します。現在、講演会737回！監査セミナー297回、研修見学会534回！！…などなど。こうした歴史と伝統を持ちながら、会の雰囲気は家庭的で自由闊達な気風です。浅学非才の身ですが、会の発展に微力を尽くしますので、ご指導のほどお願いいたします。

第27回合同展を開催

平成29年 5月7日(日)～11日(木)
文京シビックセンター 展示室1 ギャラリー・シビック

監査懇話会の存在を一般の方に広く知っていただくイベントとして、生涯学習部会の写真・俳句・絵画の「合同展」は年2回開催され、今回は27回。

写真(写友会)は23名、45点の出品。最終日に講師の合地清晃先生の講評が行われた。融雪時期にのみ冠水する場所で1本の立ち木と水面の影を撮影された先生ご自身の作品について、撮影の技術面や早朝から撮影ポイントを何度も確認される経緯などの解説から始まって、会員の出品作品の一つ一つに対して、まず優れた点を詳細に述べられた後で、さらに良くするための留意点を指摘するというスタイルで中休みを挟んで2時間半にわたる講評だった。

会員の撮影場所はいつも国内から海外まで幅広く、観る人を飽きさせない。合地先生のご指導のもとでそれぞれの作品レベルもますます向上してきているという声が多く聞かれた。

写真(写友会)から俳句(句遊会)を作るコラボは、それぞれ5点の出品。

最近テレビなどで「写真俳句」という存在が一般にも知られるようになったが、合同展ではずっとこのコラボを継続している。俳句を作る「着眼点」が理解できるという評価もいただいている。

俳句(句遊会)は9名、9点の出品。最近色紙や短冊にちょっとした絵をつける人が増えてきて観客にも好評である。俳句は文語体で一般に馴染みの薄い季語などを詠みこむため、添付した英語訳を見て「なるほどこういうことか」と納得される観客もあった。



絵画(画友会)は14名、32点の出品。沖縄、ハワイ、ワシントンと取材範囲も広く、従前にも増してそれぞれの個性が表現されていたと思う。

来場者は701名といつもよりやや少なかったが、今年は連休が長く遠出された人が多かったので、連休疲れがあったためかと思われる。

初日に作品の展示作業を始めたところに、画友会講師の関原泰生先生の妹さんがお見えになり、先生が5月1日に突然のご発病で急逝された(68歳)とのお話を受ける。先生には2003年から14年にわたってご指導を受けてきた。絵の先生には大きく2つのタイプがあり、ご自身の描き方で生徒に細かく技術指導される方と、生徒の個性を伸ばすため最小限の助言で見守るという方がいるが、関原先生は後者のタイプの親しみやすいお人柄であった。お若い頃フランスに留学され、写真画壇でご活躍された。

会期中に葬儀が行われたという事情もあり、今回はいつもの会場風景と、今年1月にシビック・アトリエでモデルさんの写生をした時の記念写真を合わせて掲載し、関原先生(前列中央)のご冥福を祈りたい。

(城戸崎 雅崇)



第230回懇親ゴルフ会

5月30日(火)八千代ゴルフクラブにて第230回懇親ゴルフ会が開催されました。

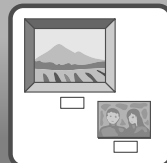
夏を思わせる強い日差しと微風という絶好のコンディションの中、14名(初参加1名)の方が参加され熱戦を繰り広げました。

結果は次の通りです。(新ペリア方式)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	木本 洋一	48	47	95	22.8	72.2
準優勝	関根 紳仁	51	49	100	25.2	74.8
3位	金馬 房雄	45	51	96	20.4	75.6
ベスグロ	星 一雄	47	47	94	14.4	79.6

ベスグロの星さんは水平賞、バーディー賞のほか、ラッキーセブン賞として八千代ゴルフクラブから寄贈されたゴルフシューズを得られてご満悦でした。

次回は11月に小田急藤沢ゴルフクラブで開催します。皆様のご参加をお待ちしております。



句遊会

五月詠草

兼題：母の日、蚕豆、当季雑詠

母の日のいつからか妻の日となりし 城戸崎雅崇

母の日や思ひふくらむ白き花 六川 里風

母の日や包丁の音軽やかに 生江沢五風

母の日もいつもの姿台所 石原 克己

母の日に偲ぶ夕日や琵琶の湖 森 邦彦

そらまめの盛られし皿のうすみどり 宮川 至剛

お多福の蚕豆三つ莢の中 清家 静楓

晩酌の舌に転ぶやはじき豆 佐藤 政百

焼き過ぎて炭味も良し蚕豆や 小野 信

やれ打つな蠅が手を擦る付度す 眞田 宗興

どうだんの小さき花や夢吊るす 中山 知祐

帆船のマストに踊る鯉のぼり 安井 正浩

初節句強い武将の兜買う 川田 勝美

写真会



「お台場自由の女神像」

金子 忍

事務局通信



◆行事報告

出席者

第142回理事会

5月24日(水)16:00～17:00 日比谷図書文化館 17

会報委員会

編集

5月10日(水)10:00～12:00 事務局 6

校正

5月22日(月)15:00～17:00 事務局 6

広報委員会

5月10日(水)14:00～17:00 区民センター 8

ホームページ再構築プロジェクト

5月2日(火)10:00～13:00 事務局 5

5月15日(月)13:30～17:00 事務局 4

第9回定時社員総会

5月24日(水)13:15～14:15 日比谷図書文化館 97

◇一般部会

第534回研修見学会

5月16日(火)14:40～16:00 38

麒麟ビール(株)横浜工場

第737回講演会

5月24日(水)14:30～16:00 日比谷図書文化館 136

講師 一般財団法人日本総合研究所 会長 寺島 実郎氏

演題 変わる世界と日本の進路

第230回懇親ゴルフ会

5月30日(火)9:30～ 八千代ゴルフクラブ 14

◇監査部会

第297回監査セミナー

5月29日(月)14:30～17:00 日比谷図書文化館 79

(他特別2名)

講師 西村あさひ法律事務所 弁護士 武井 一浩氏

テーマ ガバナンス法制と監査役・監査等委員・監査

委員

第205回監査実務研究会

5月25日(木)14:00～17:00 文京区民センター 30

問題提起者 元応用地質(株) 常勤監査役 石北 俊彦氏

コーディネータ (株)ニチリョク 常勤監査役 宮崎 芳光氏

テーマ 内部統制報告制度の現状と監査役の役割

第56回独立委員会セミナー

5月17日(水)14:30～17:00 文京シビックセンター 33

発表者 監査役職務確認書委員会委員長 堀田 和郎氏

テーマ 「監査役職務確認書(2017年版)」の解説

法令改正検討委員会

5月8日(月)15:00～17:00 事務局 5

◇生涯学習部会

写友会 撮影会

5月31日(水)10:00～14:00 代々木公園 13

画友会 写生会

5月14日(日)～15日(月) 箱根 14

句遊会 例会

5月10日(水)14:00～16:00 菱友会会議室 8

楽友会 例会

5月25日(木)14:00～17:00 浅草教会 16

棋友会 例会

5月16日(火)13:00～17:00 東京六甲クラブ 10

◇同好会

声友会

5月9日(火)13:00～16:00 (銀座)505 9

エッセイクラブ

5月16日(火)13:30～16:30 菱友会会議室 10

楽器演奏同好会

5月26日(金)13:30～17:00 横浜練習会場 6

江戸文化研究会

5月20日(土)14:15～16:30 文京シビックセンター 11

◆会員・会友異動

(新入会員)

○伊藤 宣義 (株)エイチワン 常勤監査役

紹介：田中彰氏

(変更)

○小林 正一 アルゴリズムアセットマネジメント(株)

→(株)テンダ

会 員	会 友	計
177	141	318

H29.5月末現在

編集後記

☆講演会ではテレビでもおなじみの寺島実郎・日本総合研究所会長がトランプ政権の内情、日本経済の動向、高齢化社会の問題点など幅広く話されました。豊富なデータを使って、21世紀入りしてからの日本の中間層の没落、貧困化を解説されました。資料集は品切れになる人気ぶりで、入手できなかった方には事務局から郵送しました。☆監査セミナーでは武井一浩弁護士が監査役ら非業務執行役員の役割について「利益相反処理の中核」と指摘、そのための方策を話されました。要録はありませんが、HPにレジュメ全文を掲載しています。☆研修見学会は生麦事件発生場所に近い麒麟ビール横浜工場。真夏を思わせる一日、見学で歩き疲れた後の試飲会も好評でした。注ぎ立ての3種類の生ビールを楽しめました。(清水 光雄)